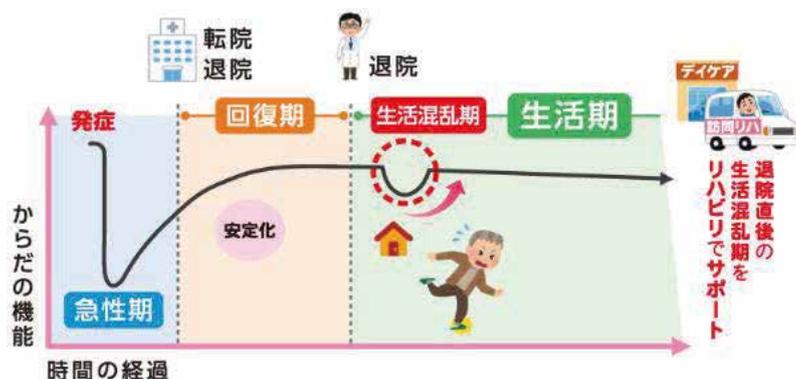


## テーマ:家庭で出来るリハビリ支援システム

### ■ 背景

疾患治療を行い、リハビリテーションを経て退院すると環境変化の大きさに戸惑い「生活混乱期」に陥ることが多い。体の機能を維持するためにはデイケアなどを利用しながら、リハビリを継続することが大切である。

一方で、退院後、自宅で自分のペースでリハビリを支援する手軽な装置や器具が待望されている。



中央社会保険医療協議会 平成30年度診療報酬改定において経過措置を設けた施設基準等の取扱いについてより

### ■ 現状の対処法

立ち上がりや歩行などの運動を支援するロボットスーツ HAL® (Hybrid Assistive Limb) が実用化され、主に神経・筋難病疾患で生ずる歩行機能改善に利用されている。HAL®は医師や理学療法士の指導の下で使用することになっており、法人向けのHALレンタルやリースは存在するが、当然個人向けのものは無い。従って、患者さんは自身で出来る範囲のことを実施し、定期的に通院するしかない。

本院のリハビリ施設

#### 機能アイデア例

- 電動アシスト機能
- 自動的に負荷を設定する機能
- 人が動こうとする意志を電気信号で捉え、動きを補助する機能



### ■ 市場性

- 回復期リハビリテーション病棟協会によると、届出病床数:92,692床(2022年)、届出病棟数:2,048棟(2022年)となっている。  
(<http://www.rehabili.jp/publications/sourcebook.html>)。
- 社会の高齢化に伴いリハビリステーション関連製品の市場規模は、2025年には約5,000億円規模と予想されている(富士経済、  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/market/detail.html?cid=18064>)。



### ■ リハビリテーション部ホームページ

[https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central\\_clinic/rehabilitation\\_dep/index.html](https://www.shiga-med.ac.jp/hospital/doc/department/central_clinic/rehabilitation_dep/index.html)